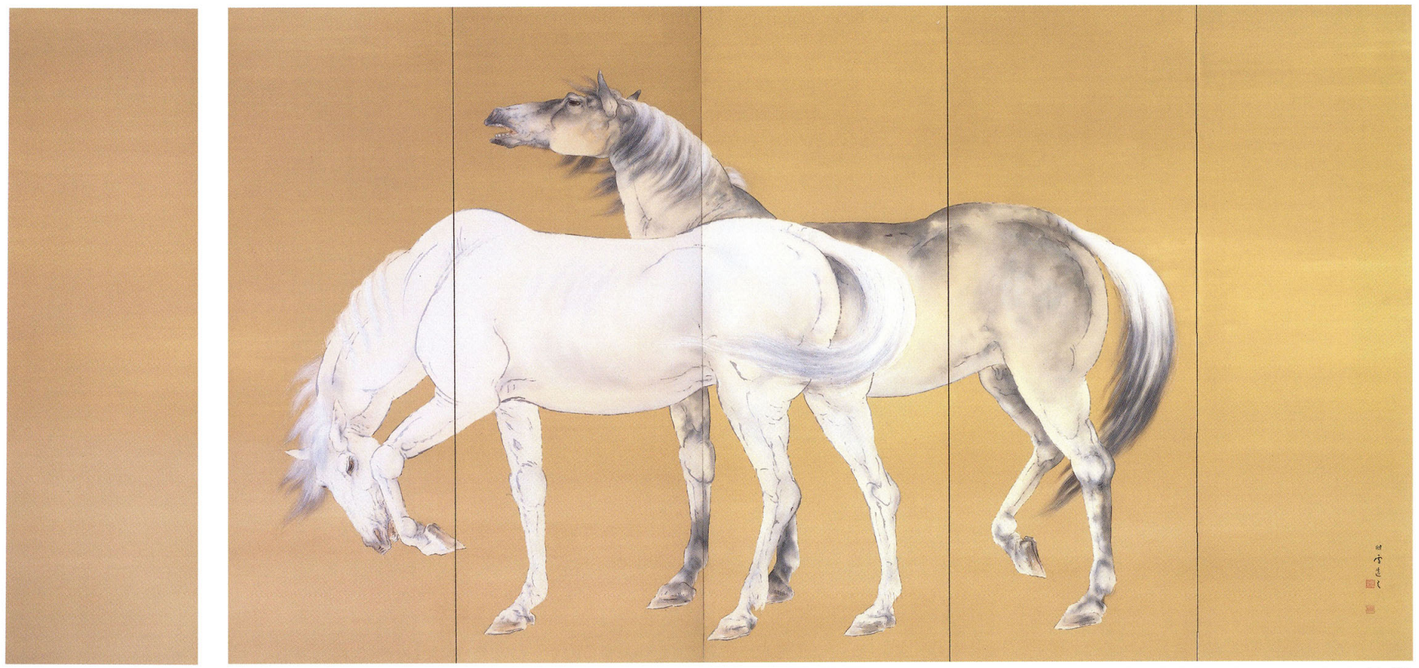
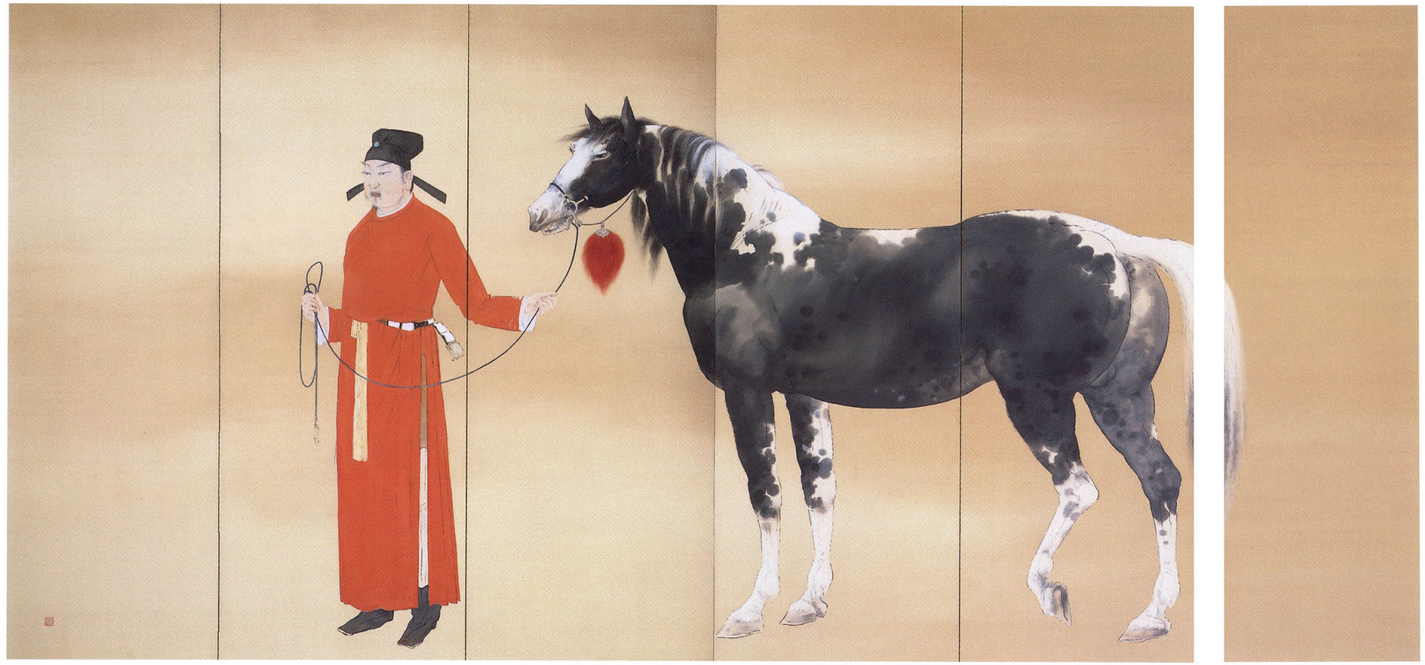


〈右隻〉



〈左隻〉

8　橋本関雪　進馬図

昭和八年（一九三三）　絹本着色
本紙各二〇二・五×四三五・〇

六曲一双

岩崎家から昭和の大礼に際して献上された五双屏風のひとつ。古来中国では名馬を持つことは皇帝の権力の象徴であり、代々の皇帝へ献上品として馬が贈られた。漢学の教養が深く中国画にも傾倒していた橋本関雪（一八八三～一九四五）らしく、唐時代からその作例が認められる「呈馬図」（皇帝への馬の献上）の形式を取って、名馬の献上の場面を描く。そこには当然この「進馬図」を昭和天皇へ献上する作者自身の姿が重ねられていたことだろう。

右隻の二頭の馬が脚を掻きまた嘶きをあげるのに対し、左隻では飾りをつけた葦毛馬と厩官が微動だにせず前方を見据えている。右隻の馬の動的な仕草が左隻の静けさを一層際だたせ、厩官の鋭いまなざしと相まって画面には張り詰めた雰囲気がみなぎり、作者の皇室に対する敬虔な気持ちが表れているかのようである。そして筋肉の隆起まで見事に表された馬の堂々たる体躯の描写には、「（達者すぎる）腕が邪魔する」と豪語した橋本の高い技量が遺憾なく発揮されている。

昭和三年に岩崎家から依頼を受けながら、橋本が「進馬図」を完成させて岩崎家へ納めたのは昭和八年の十二月のことであり、制作には実におよそ五年もの歳月が費やされている。橋本は当初波濤の図を構想し制作を進めていたようであるが、結局納得いかずに全て一から描き直して、この「進馬図」になったということだわりようであった。またこの作品の完成は偶然にも皇太子（天皇陛下）の御誕生と重なり、橋本はその喜びを作品に寄せた漢詩の形で発表してもいる。

橋本は竹内栖鳳に絵を学ぶが、後に師と衝突してその門から離脱する。しかし、そこで学んだ四条派の写実描写と深い漢学の教養に基づいた詩情豊かな作画内容の合わさった橋本の絵は新南画と評され人気を博した。

・各展覧会図録中，作品名や作者，制作年などの表記は，図録発行当時のものです。

・三の丸尚蔵館の展覧会図録の著作権はすべて宮内庁に属し，本ファイルを改変，再配布するなどの行為は有償・無償を問わずできません。

・三の丸尚蔵館の展覧会図録（PDF ファイル）に掲載された文章や図版を利用する場合は，書籍と同様に出典を明記してください。また，図版を出版・放送・ウェブサイト・研究資料などに使用する場合は，宮内庁ホームページに記載している「三の丸尚蔵館収蔵作品等の写真使用について」のとおり手続きを行ってください。なお，図版を営利目的の販売品や広告，また個人的な目的等で使用することはできません。

花ひらく個性、作家の時代―大正・昭和初期の美術工芸
三の丸尚蔵館展覧会図録No.50

編集　宮内庁三の丸尚蔵館
制作　株式会社　東京美術
翻訳　横溝廣子
発行　宮内庁
平成二十二年三月三十日発行

© 2010, The Museum of the Imperial Collections